

だいきく通信 第四十七号 「秋の号」

いあこやつ

新型コロナウイルスの感染拡大は、依然収束の兆しが見えませんが、重症に陥るかたも多く、医療が維持できるか、大変心配されるところです。現在広がっている変異株は感染力が強く、特に空気感染への対策が重要だと言われています。手洗い、手指の消毒とともに、マスクを正しく装着すること、適切に換気を行なうことが必須のことです。まだまだ窮屈な生活が続きますが、気をつけながら毎日を過ごしたいものです。

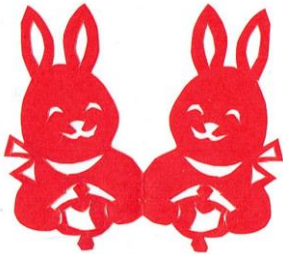
当神社でも引き続きできる限りの感染対策をしつつ、みなさまのお参りをお待ちしております。

社報「だいきく通信」第四十七号をお届けいたします。

今回の内容は、最近の当神社の話題、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。



大國神社 宮司 大島資生



大國神社の今

前号でお伝えしました通り、当神社境内には神社の由来を記した石碑がございます。この石碑が、経年劣化のため補修が必要な状態になっております。先日、専門家にお問い合わせして補修の見積もりを出していただき、検討しました。その結果、現在碑に刻まれている文字をかたどりして、新しい碑を設けることになりました。十月には作業に入り、年内には完成する見込みです。

ご参拝の際にご不便をおかけすることがあるかもしれませんが、安全第一に作業を進めるようにいたします。どうかご了承くださいませ。

お宮あれこれ 装束の話

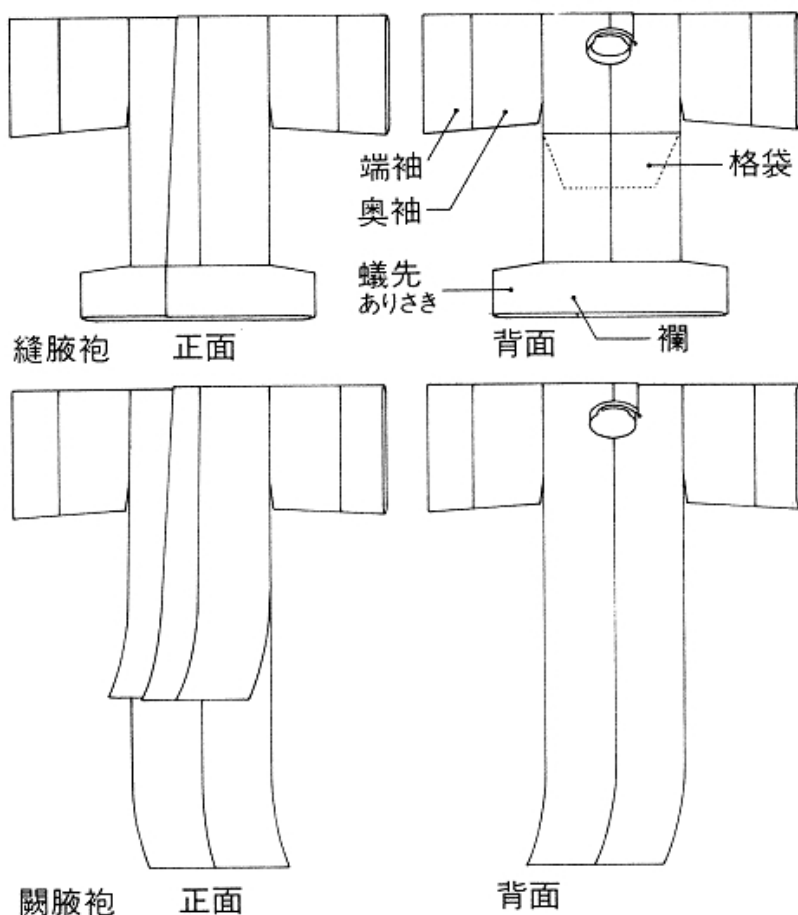
神社での祭礼の際、神職は独特の装束を身につけます。今回は神職が祭礼で身につける装束についてお話ししたいと思います。

神職の装束は、祭礼の格式や規模にしたがって決められています。最も格の高い装束が正装、次に斎服、最も一般的なのが常装と呼ばれます。正装は冠をつけ、「袍（ほう）」という服を着て指貫（さしぬき）という袴を履



衣冠③

【袍】図一平安時代中期以降の袍



袍の着装状態。文官(左)は縫腋袍を、武官(右)は闕腋袍を着る。いずれも《年中行事絵巻》より。

き、檜扇(ひおうぎ)を持ちます(前頁の図は『デジタル大辞泉』より)。斎服も冠と袍を用いますが、正装とは異なるものを身につけます。常装は烏帽子(えぼし)と狩衣(かりぎぬ)です。

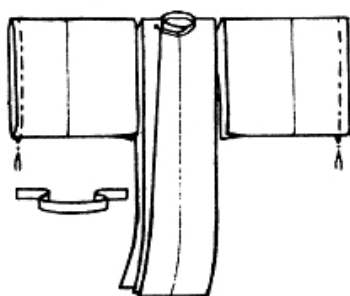
まず、「袍」について簡単にお話ししましょう。

袍は奈良時代以来、朝廷で用いられていた服です(左の図は『世界大百科事典』より)。丸襟で、身分に応じて色や布地が定められていました。色についていうと、古代の法典である

「養老令(ようろうりょう)」の「衣服令」では天皇は白、皇太子は黄丹、親王と臣下の一位は深紫、二・三位は浅紫、四位は深緋(あけ)、五位は浅緋、六位は深緑、七位は浅緑、八位は深縹(はなだ)、初位は浅縹とされていました。平安時代以降、色の区分は簡略化されていきました。文官はわきの下を縫い付けた「縫腋袍(ほうえきのほう)」、武官は動きやすいようにわきの下を縫っていない「闕腋袍(けつえきのほう)」を着ました。

【狩衣】

狩衣に奴袴姿。
《春日権現験記》より。



おそらく神社で皆さんが最もよく目にするのは「狩衣」でしょう（左の図は『世界大百科事典』より）。狩衣は、動きやすい闕腋袍をさらに簡略化したもので、奈良時代には民間服として使われていました。平安時代になって、朝廷の鷹狩りの際に、上級文官も臨時に使うようになったため、朝廷でも用いられるようになっていきました。「狩衣」という名前もこういった経緯に由来があります。袖の部分は後ろ側だけ少し縫う形になり、さらに動きやすい服になりました。同時に素材も布から

絹綾製のもので、平安時代末から鎌倉時代にかけて高級化します。同時に紋様も、草木・花鳥・虫や獣などさまざまなものがあしらわれるようになりました。

狩衣は長く垂れさがる袖が特徴で、袖口にくくり紐がつけられています。これも動きやすくするためのもので、野外での狩りで使用した名残です。

なお、狩衣の色については、紅と紫を遠慮するほかは決まりがありませんでした。

現代の神社でも、いろいろな色の狩衣を目にすることになります。お参りの際は、狩衣の色にも注目してみてください。

参考文献 『日本国語大辞典』（小学館）、『デジタル大辞泉』（小学館）、『日本大百科全書』（小学館）、『世界大百科事典』（平凡社）、（以上ジャパンナレッジ利用）、『神道大事典』（弘文堂）

祭礼・祈禱などの案内

○次回甲子祭

令和三年十一月十二日（金） 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈禱を行なっております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次頁の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。



(連載まんが)

大吉うさぎ

～神社豆知識 その11～

くま こまち 作



〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話

携帯

eメール

〇三―三九一八―七九三〇

〇八〇―一九八七―八七一六

daikokujinja@gmail.com



次号発行予定
「だいく通信第四十七号」、いかがでしたか。次号「冬の号」は、令和三年十一月十二日の甲子祭に発行予定です。

「だいく通信」第四十七号 令和三年九月十三日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇―〇〇〇三 東京都豊島区駒込三―二―十一

<http://www.daikokujinja.org>